

水痘（みずぼうそう）について

原因

水痘・帯状疱疹（すいとう・たいじょうほうしん）ウイルスによって感染します。感染経路は飛沫感染・空気感染で、非常に感染力が強いことが特徴です。多くは10歳未満のお子さんに発症しますが、成人での発症もあります。

水痘の予防接種をしていても約2割は水痘にかかりますが、予防接種をした人の多くは軽症ですみます。

症状

感染から約2週間（10～21日）の潜伏期ののちに発症し、全身に直径3～5mmの発疹ができます。はじめは胸・腹・背中などの胴体部分や顔に発疹が出て、その後次々に発疹が出て、手や足にも広がり、かゆみを伴うことがあります。頭皮や口の中にできることもあります。発疹ははじめもり上がっているだけですが、翌日には水疱（水ぶくれ）をもつ発疹に変化し、1週間程度でかさぶたになります。アトピー性皮膚炎をもつお子さんは発疹が重症化することがあるので注意が必要です。



他に発熱や体がだるいといった症状も出ます。口の中やのどに発疹が出た場合は痛いので、ものを飲み込むのが辛くなります。まれに肺炎をおこすことがあります。多くは成人例です。またごくまれですが、ライ症候群といって嘔吐や神経症状、肝不全などをおこすことがあります。

水痘・帯状疱疹ウイルスはいったんからだに入ると水痘が治ったあとも神経の中で潜伏し、免疫力が低下すると再び増殖し、帯状疱疹というかたちであらわれます。

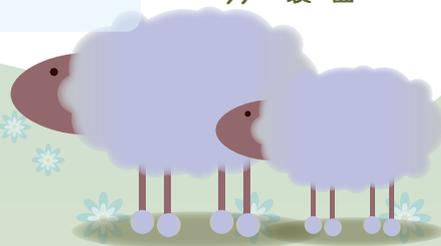
治療

軽症の場合は症状に対する治療のみで経過観察することもあります。皮膚の発疹は掻きむしると細菌感染を合併して化膿したり跡が残ることがあるのでかかないようにして、フェノール亜鉛華リニメント（カチリ）などをつけます。アシクロビル（ゾピラックス）やバラシクロビル（バルトレックス）の内服や、症状がひどい場合は点滴を行う場合もあります。

こんな時はもう一度受診してください

- 1 水分がとれずにぐったりしている場合
- 2 発疹がひどくてかきむしってしまう場合
- 3 何度も吐く場合
- 4 せきが続いたり、苦しそうな場合
- 5 頭痛や意識障害（受け答えがはっきりしないなど）のある場合

>> 裏面へ



登園・登校

すべての発疹がかさぶたになるまでは登園・登校はできません。発疹がかさぶたになったらもう一度受診してください。診察の上、登園・登校許可書を発行いたします。

ご家族・きょうだいへの対応

家族で予防接種をしておらず水痘にかかった経験のない人がいる場合は、うつる可能性があります。潜伏期が10～21日ですので、最初の接触から10日目以降に発疹が出ていないか注意してみてください。

また、最初の接触から3日（72時間）以内に予防接種すれば発症を防げるという報告があります。しかし発疹が出る1～2日前からは感染力が認められるため、予防接種が間に合わないことも多くみられます。その場合でも予防接種により軽症にすることができるかもしれません。予防接種をご希望のご家族がいる場合はご相談ください。

高嶋 能文



たかしま よしふみ

高嶋 能文

山梨医科大学卒
日本小児科学会専門医
日本血液学会血液専門医
日本がん治療認定医
日本性感染症学会会員
日本エイズ学会会員

自由が丘メディカルプラザ 小児科

TEL : 03-5731-3565

<http://www.jiyugaokamp.com/s>

